

九州兼喜

2022.6
No. 144

令和4年度

「全国安全週間」 にあたって

清水建設株式会社 九州支店
安全環境部 部長 田中 秀樹

今年も『安全は 急がず焦らず怠らず』のスローガンのもと、6月1日から6月30日を準備月間、7月1日から7月7日を本週間として、労働災害を防止するために自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的として、第95回全国安全週間が実施されます。

令和3年度は、全社で死亡災害0件(海外では2件)、休業災害43件、度数率は0.54で目標の0.57を達成しました。全社(国内)で死亡災害0件は統計を取り始めて初めてのことであり、ひとえに協力会社を含め関係者全員の努力の賜物であり、感謝の念に堪えません。九州支店は死亡災害0件、休業災害5件、不休災害42件で度数率は一昨年度10.6に比べ0.90と減少したものの目標の0.57は達成できませんでした。

休業災害5件の内訳は建設機械関連2件、転倒2件、落下1件です。前年度、地山を走行中のバックホーが転倒する事故が発生しましたが、令和3年5月には、高さ約3メートルの盛土の最上部からバックホーが転落する事故が再び発生しました。仮囲いをなぎ倒し、第三者が通行する区域へ転がり落ちたことは大惨事に繋がった可能性もあり、九州支店全体で猛省すべき事故でした。また、転倒による休業災害は、令和2年度3件、令和3年度2件発生しており、今年度も4月に1件発生しました。引続き転倒による災害を防ぐため、段差や障害物の除去、照度の確保、見える化等を行い転倒防止に努めてください。前年21件だった熱中症は、5件と一桁に減少しました。これについては作業所関係者の努力の結果だと思えます。

令和4年度の九州支店安全衛生計画は、『ゼロ災を達成するための行動規範』として、1.『墜落・転落・転倒災害の撲滅』 2.『建設機械・クレーン関連災害の撲滅』 3.『倒壊・崩壊災害の撲滅』 4.『公衆災害・インフラ損傷事故・火災の撲滅』 5.『石綿関連不具合の撲滅』の5項目に加え、九州支店独自の重点施策として、

- 6-1 『あいさつ運動』を展開
 - 6-2 『部署主導の安全検討会』の充実
 - 6-3 『火災・インフラ事故』等の災害撲滅
 - 6-4 『凡事徹底の凡事』の理解と能力向上
 - 6-5 『協力業者・職長の能力向上』を支援
- の5項目に取り組み、より一層の災害撲滅を目指します。

『あいさつ運動』を展開については、挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、コミュニケーションの取れた現場では事故が少ないとの観点からも全社的に取り組む活動となっています。『火災・インフラ事故』等の災害撲滅については、今年度の4月に新築現場の小部屋で床用の接着剤が燃える火災が発生しており、一昨年度も、2件の火災がありました。火災については11年前に鹿児島で竣工間際の建物が全焼したことが記憶から薄れており、昨今の火災につながっているのではという懸念があります。また、インフラ事故についても、全社で取り組んできましたが、歯止めがかからないことを受け、今年度も、5月18日を『火災予防の日』、毎月16日を『インフラ損傷事故防止の日』として支店全体で取り組んでいきます。

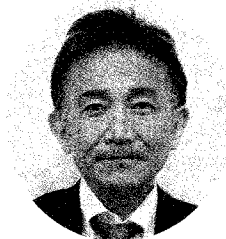
『凡事徹底の凡事』の理解と能力向上、『協力業者・職長の能力向上』を支援については凡事(安衛法、社内ルール、安全書類等)の理解を深めるため、ICT等を活用し、現場の職員、作業員等関係者に教育周知を進めるとともに、協力業者・職長の能力向上を支援していきます。

3年目となった新型コロナウイルス感染拡大についてですが、新種の変異ウイルスが次々と発生し、まだまだ予断を許さない状況ですが、ウイズコロナを見据え共存していくためには、新しい仕事のやり方を考え色々なツールや方法を実行していく動きが必要であり、まさに働き方改革に向けた活動そのものであります。ぜひ、生産性を高め、働きがいの向上、健康経営の実現につなげていただきたいと思います。ニューノーマルへの移行、デジタルをはじめとするテクノロジーの急速な進展など、社会・産業構造の転換期を迎えています。我々も生き残りを賭けて、あるいは新たなビジネスの開拓に向けて、業態の転換、事業構造改革を懸命に進めています。新しい取り組みを進める過程で、うまくいかないことも出てくるかと思いますが、都度改善を図り、企業改革に挑戦していきましょう。

また、今年は梅雨入りも梅雨明けも早まる予報です。熱中症対策を早めに備え、教育・環境整備・健康管理・巡回指導を習慣化するとともに、災害防止活動にご協力をお願いします。

※全国安全週間ポスターは4ページにあります。

着任のご挨拶



清水建設(株)九州支店
副支店長

梅山 英樹

過日、4月1日付で建築担当の副支店長を拝命致しました梅山と申します。よろしくお願ひいたします。九州兼喜会の皆様には日頃より当社の様々な活動にご理解をいただき、お力添えを賜り深く感謝申し上げます。

はじめに簡単に自己紹介をさせていただきます。私は昭和40年生まれでして、父の仕事の関係で転居が多かったものの、小学校、中学校、高校時代を九州で過ごし、大学から九州を離れ、平成元年に入社し東京で勤務となりました。入社6年目に九州支店に配属されまして、福岡、佐賀、熊本、長崎で現場勤務を経験し、途中で横浜支店や東京支店へ異動はありましたが、博多駅ビルの工事に携わり駅ビル開業ならびに九州新幹線全線開通を見届けました。その後、東京支店へ異動となり現場勤務と一時本社勤務を経て、ようやく11年ぶりに九州に戻ってまいりました。

地元は福岡で久しぶりに自宅から支店社屋に通勤しておりますが、入社して33年間のうち31年は現場勤務であり、直近では昨年の7月まで現場の業務に従事しておりました。こちらに着任しまして改めて思うのは「九州の広さ」です。1日でも早く皆様のもとにご挨拶にお伺いしたい気持ちでおりますが思うように実現できておりません。6月に各営業所で開催されます地区安全大会をはじめとして、まずはお伺いし情報を共有させていただき、共に九州で歩んでいきたいと考えておりますので、至らぬ点多々御座いますがご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染状況が収束に

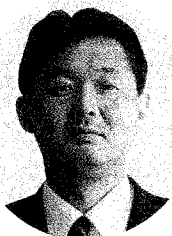
至らない状況のもと、ウクライナ情勢悪化により全世界的に物価上昇など様々な困難な状況の進展が日々加速しており、日常生活にも多大な影響が発生しつつあります。そんな中で我々の建設業界におきましても、建設資材の高騰や調達納期遅延等により苦境に立たされる状況が想像をはるかに超える速さで進行しております。工事受注の競争激化や労務不足は相変わらずの状況であり、これに加えて2024年問題への対応が、あと2年弱で期限となります。2024年4月より建設業においても時間外労働の上限規制が適用され、原則として月あたりの残業時間上限は45時間となります。そのような環境下で工事の品質や安全などの質を落とすことなく、どのように業務を効率化していくのかを考え実行していく必要に迫られております。

一方で九州における建設需要は低迷しておらず、グローバルな視点で業務を拡大していく企業さんからの大型工事発注が複数予想されており、今年そして来年は過去に経験したことのない繁忙状況となる見込みですが、我々建設業の社会的使命として、何としてもこの難局を乗り越えていかなければなりません。これは九州兼喜会の皆様のお力添えなしには実現不可能であります。

小職も、微力ながらしっかりと腰を据えて様々な課題に取り組み、更に活気のある九州となりますよう精一杯努めてまいり所存ですので、ご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後になりますが、九州兼喜会の益々のご発展と会員各社の皆様のご健勝を心から祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

着任のご挨拶



清水建設(株)九州支店
副支店長

小川 哲也

4月1日付けで三浦副支店長の後任として管理担当副支店長を拝命いたしました、小川と申します。

九州兼喜会の皆様におかれましては、日頃より弊社の事業活動にご理解を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

私は山梨県甲府市生まれで、幼少の頃に千葉県に引越した後、就職するまでずっと千葉県で育ちました。九州は初めてとなります。

さて、私の社内における経歴ですが、旧京橋本社の最後の年である平成2年に入社し、最初の配属は本社総務部でした。その後、埼玉営業所で建築現場の事務、北海道支店で建築営業を経験した後、本社、東北支店、土木総本部で総務部に計19年所属し、その後直近の1年間は土木東京支店に所属していました。振り返ってみますと、会社において3分の2の期間で携わってきた総務業務を通じ、単純な事ではありますが、人の話によく耳を傾け、様々な意見に対して広い目で感じ取ることが大切なことではないか、と思っています。

ところで建設業におきましては、2024年の働き方関連法による労働時間の上限規制が待ったなしとなってきました。私が入社したころは、内勤も土曜日は隔週休みであり、現場は土曜稼働が当たり前でした。しかし、これからは休日出勤をしたら代休を確実に取り、また今までの仕事のやり方も工夫して変えていかなければ対応することができません。その為には、同じ建設業に関わる者として、九州兼喜会の皆様とともに働き方の改革に

取り組み、結果として労働環境が改善された魅力のある業界としていかなければならないと感じています。

また、建設業に求められる使命として、災害時の対応があります。東日本大震災や平成28年熊本地震などの大震災や、近年毎年のように大規模化して被害が出ている風水害の対応など、建設業に求められる使命や責任は大きくなってきていると思います。これらについても九州兼喜会の皆様とともに取り組んでいかなければならない課題かと思っています。

固い話ばかりになりましたが、福岡に着任して最初に感じたのは、町の活気と仮囲いの多さです。東京でまん延防止期間が終わった直後に着任したこともあるかもしれませんが、人出の多さに少し驚き、また街の中を歩くと、所々に仮囲いがあり、建設業に携わる身として非常に心強く感じました。東京オリパラも終わり、建設業も今後競争が激しくなっていくのかもしれませんが、九州のように引続き活気が続いて欲しいものと思います。

新型コロナウイルスは一進一退で、今のところは小康状態ではあるものの、引続き予断を許さず、コミュニケーションも自由にならない状況ではありますが、働きやすい明るい職場づくりに貢献していきたいと考えています。九州兼喜会の皆様におかれましては、お力添えをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、九州兼喜会の益々のご発展と会員各社様のご発展、ご健康を心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

兼喜会議事録

○理事会

令和4年1月12日(水) 10:00~

場 所：兼喜会事務所

出席者：篠森会長他8名 調達部より谷口部長様

【議題】

1. 令和4年九州兼喜会定時総会の件
2. 令和3年決算報告の件
3. その他

○理事会

令和4年2月9日(水) 12:00~

場 所：兼喜会事務所

出席者：篠森会長他9名 調達部より谷口部長様

【議題】

1. 令和4年九州兼喜会定時総会の件
2. 第1回全国連合兼喜会支部長会議の件
3. 青年部
4. その他

○理事会

令和4年3月1日(火) 12:00~

場 所：兼喜会事務所

出席者：篠森会長他9名 調達部より谷口部長様

【議題】

1. 青年部
2. その他

○役員会

令和4年3月1日(火)

※新型コロナウイルス感染対策により中止

○令和4年度清水建設九州兼喜会並びに清水建設九州支店取引業者災害防止協議会定時総会
○九州兼喜会青年部総会

※新型コロナウイルス感染の影響により書面による議決を実施させていただきました。

諸行事

安全祈願祭

日 時/令和4年1月12日(水)

場 所/成田山久留米分院

豊川稲荷祭

日 時/令和4年2月15日(火)

場 所/支店社屋屋上

会員の 動 向

退 会

○桐和空調設備(株) (空調衛生設備)
新垣 光博 R4.1.31

FAX番号変更

○有田工業(株) (鷹土工)
(新)FAX番号 0947-23-1771

新入会員

○SYU建装(株) (左官) R4.1.1
会員名→古賀 宏之

○太陽建設(株) (斫・解体) R4.1.1
会員名→松井 祐也



発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-591-5110